

牧草と園藝



飼料用根菜(カブ)の栄養価

◎冬場の高泌乳飼料

昔から「乳牛には水を飲ませるより食わせろ」という言葉があります。とくに冬期間は寒冷のため、乳牛は多量の水を飲むことを好まず、その結果、泌乳能力を十分に発揮できないことが多いわけです。

全国的に栽培されている飼料用カブと東北、北海道で栽培されている飼料用ビートは、冬場の貴重な多汁質飼料であり、高泌乳飼料として好適します。

1. ビタミン、ミネラル類と5～10%の糖分を含み、乳牛の健康を促進し、かつアルカリ性飼料で、サイレージとの併給に適します。
2. 乳牛の嗜好性が良く、食い込み量（乾物摂取量）が多くなるので、泌乳量を増加する。

飼料用ビートの牛乳生産性に関する試験

(北海道立新得畜試)

牛 群	飼 料			飼料摂取量(1日1頭当りkg)				乳 量		乳 組 成 (%)		
	基礎飼料	濃厚飼料	飼料用ビート	乾 物	D C P	T D N	粗繊維	1頭1日当り	比 率	脂 肪	無 脂 固 形 分	蛋白質
A	サイレージ自由採択	乳量10kgに対し3.5kg	kg	14.91	1.48	9.69	4.00	15.80	100	3.47	8.18	2.59
B	"	"	20	15.94	1.56	10.71	3.79	16.63	105	3.56	8.24	2.67
C	"	乳量10kgに対し1.75kg	—	12.86	1.07	8.04	3.91	13.80	100	3.43	8.03	2.50
D	"	"	20	13.98	1.19	9.15	3.69	15.19	110	3.60	8.14	2.55
(有 意 性)				**		**	*	**			*	*

注) **は1%水準、*は5%水準で有意差あり。

◎暖地で乳牛の夏バテ防止

酷暑の続く7～8月に乳牛は食欲が減退し体力を消耗します。夏期には泌乳量の低下をきたすだけでなく、産前・産後の事故発生が多くなりがちです。

暖地で栽培する飼料用ビートの収穫、給与時期は7～8月であり、ビタミンと糖分を含む飼料用ビートは、食欲を増進し、夏バテ防止、疲労回復に効果的です。ビートの給与により夏場に乳量を増加でき、夏期乳量は割高なので経済的メリットも大です。また、残暑の9月に乳牛の事故率が高まるため、ビートの給与を9月までもち越すことが望ましく、ビート品種は耐暑性、耐病性が強く、長期に栽培できる「モノバール」が最適品種です。